

## ニューヨークのデザイン・インテリア見本市(=ICFF)

蟬本 睦

### <展示会の特徴>

5月21日(日)~24日(水)の4日間、ニューヨークのジャビッツ展示会場にて、デザイン・インテリアの見本市、ICFF(International Contemporary Furniture Fair)が開催されました。

この展示会は例年、ジャビッツの1階にて開催されてきましたが、今年からは3階のメインフロアを使った開催となりました。主催者発表では750社、30カ国からの出展となっており、海外からの出展も多く、ヨーロッパのブランド、メーカーが多く参加しているのも特徴です。

筆者は、前職ジェトロ勤務時代に、2009年~2012年までジャパンパビリオンを組織して出展をさせていただいていました(現在では残念ながらジャパンパビリオンはありません)。日本のデザイン展という企画展も含めて延べ200社ほどの日本企業の出展を支援させていただいたのですが、家具と銘打った展示会でありながら、建築、建材といった素材が人気でした。

というのも、この展示会の特徴は、その来場者の構成にあります。通常の展示会は、バイヤーと呼ばれる購買担当者が来ることが多いのですが、この展示会では、主催者発表で60%が建築家、インテリアデザイナー、ファッションやグラフィックデザイナーなどなんらかの「デザイナー」と呼ばれる人々です。デザイナーはよっぽどでないとその場で買い付けることはしませんが、自分の物件プロジェクトがひとたび立ち上がると、どのような家具や建材を用いるかを施主に提案しなければなりませんので、その時点で出展していたブランドやメーカーに連絡をすることになります。日本企業の出展者からも「忘れたところに連絡をもらった」ということを伺ったこともありました。

展示会には、華やかな家具などの展示に混じり、様々な建材、部材、素材が出展されています。例えばシャワールームの排水の蓋だけを専門に作っている会社、コンクリートの板素材を扱っている会社、ドアのノブだけを扱っている会社、壁面タイルだけを扱う会社、あるいは素材だけを集めたライブラリーを運営する会社などなど、様々な素材、建材メーカー、ブランドが参加していました。

ICFFが開催される週はニューヨークデザインウィークと称され、市内各地にて、インテリアに関する様々なイベントが開催されます。ソーホー地区などを中心に、ICFF開幕前の金曜日くらいから、インテリアメーカーのショールームなどで、新商品の発表、トークショーやパーティーなどが多く開催され、多くの業界人で賑わいます。イタリア・ミラノで4月に開催されるサローネの規模を少し小さくしたようなものといえればわかりやすいかもしれません。が、ここニューヨークには、世界をまたにかけて活躍する建築設計会社も多く存在して、ICFFをきっかけに、ニューヨークの建築会社と知り合い、そこを通じて、世界中の主要都市の案件に納品を果たしたというような成功事例もありました。

### <日本企業のビジネスチャンス>

私見ですが、日本の家具をそのままアメリカに売るとするのは、とても難しいと思っています。欧米と住宅環境や生活様式が異なることからデザイン面でハンデがあり、一般的には、欧米に比べてブランド力もなく、アジア諸外国に比べてコスト競争力もありません。しかし、日本には、焼き物、繊維、金属製品、ハイテク関連商品など、建築、建材、素材やパーツとしては、諸外国に決して負けない製品がたくさん存在すると思います。巨大なミラノサローネに挑戦される日本企業は非常に多いのですが、ここ、世界最大の市場である米国にしてはコンパクトなこの展示会には、日本企業の参加はまだまだ少ないので、こちらに出た方が注目も集めますし、ビジネス的なメリットが少なからずあるのではないかと考えています。

5月のこの時期は、ニューヨークの短い春、気温も1年を通じて最も過ごしやすい時期です。ぜひ、関連する業界の広島県企業にも挑戦をしてもらいたいと思っています。